

紙面でつながる なみエール



なみエール第五号 令和3年5月1日発行 編集/一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、気軽に会ったり集まったりすることが難しい状況が続いています。一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業では、町民の皆さん同士や地域が紙面を通してつながりを維持しながら、浪江町の情報を楽しんでもらえるように「なみエール」を発行しています。

浪江町の様々なテーマについて
深掘りし紹介するコーナー

浪江のあれこれ

第5回のテーマは“浪江の若者の声”

浪江町に住む20代3名に集まっていたいただき、町のことや暮らしてみていることなどお聴きしました。

聴き手:地域づくり支援専門員/3月25日まちづくりなみえ事務所で対談



防災で町の人がつながる
イベントあったらいいな

ながはら りか

長原梨花さん(27歳)

浪江町出身。震災後本宮で暮らし、結婚を機に昨年浪江に帰還。朝日を見ながら歩く114号が好き。

—浪江町で暮らしてみた印象は？

村瀬 お店が閉まるの早いですよね、仕事帰りに寄りたいけど。

緒形 私は思ったより店がある！という印象。最近はコンビニも増えたし。長原 最低限の買い物はできるよね。遊ぶところはないかなあ。

—浪江町で人とのつながりはいかがですか？

緒形 地域密着の職場なので、町の人と話す機会は

多いです。村瀬 仕事で話す機会はあるけど、帰宅時間の関係で近所の人と会えないのが現実です。

—幼い頃などの、皆さんの地域との思い出はありますか？

緒形 うちの町では近所の家族同士で防犯パトロールをしていました。貯水池の掃除もやっていたなあ。

長原 浪江町なのでやっぱり十日市。あとは隣組での花見やボウリング大会、地区対抗の運動会もあった。

村瀬 地区運動会、うちの町でもあった！盆踊りの練習もしたな。

—聞いていると、盆踊りやパトロールなどが、自然に地域へ入り込んでいたような印象ですね。では今の浪江町に視点を移すとどうですか？皆さんどんなふうにつながりを考えていますか？

緒形 地区の運動会ができるといいな。長原 仕事で浪江町に来た方もいますよね。そういう人は地域に入り込むきっかけが難しいかも。集まる機会がないし。挨拶くらいはしたいなあ。緒形 掃除など皆でやるべきことがあって集まる、そういうきっかけがいいかも。

村瀬 スポセン(浪江町地域スポーツセンター)でバスケットをやりたいって声をかけていたら、どんどん仲間が増えた。緒形 スポセンは若い人が多くてびっくりした。私も村瀬さんのようにつながりをつくれたらいいな。そういう情報を知っていきたい。(裏面にづく)



音楽フェスがあると
おもしろい

むらせ しょうや

村瀬翔哉さん(28歳)

静岡県出身。安藤ハザマ浪江拠点出張所勤務。2020年6月より浪江に居住。スポセンでバスケットをやっている。独身・相手募集中。

運動会をやるなら復興関係の
会社の方にも関わってもらえ
ると良いかも

おがた ゆう

緒形優さん(24歳)

神奈川県出身。浪江に移住して2年。アクツ電機勤務。桜の季節のリバーラインが好き。



—最後に未来のことを。10年後の自分や浪江町をイメージすると？

村瀬 転職でいないかも…。でも南相馬市原町区ぐらいに栄えてくれたら色々なことが広がっていく。

緒形 現在計画されている施設も完成して、人も増えているかなあ？より街らしくなってるかな？楽しみ。

長原 「街らしくなる」って本当にそう思う。最近は生活の灯りも増えましたよね。出来たばかりの新しいものが10年後は根付いているかな、人の流れも変化していたり。

—ありがとうございます。この座談会でも、新たなつながりができましたね。

長原・緒形 同世代でも、こういう話をするのがないから新鮮でした。

村瀬 趣味仲間の募集や告知など、目立つ商業施設に貼りだしたり出来る
と、もっと広がりそう。

キーワードは“きっかけ”

ステキな笑顔の3名！
また話を聴かせて下さい



ご年配の方々と若い世代間だけじゃなく、若い世代同士もつながるきっかけが分からない、そもそもきっかけ自体が少ない…こんな現状が見えました。また、つながるきっかけになる情報発信も重要だなと感じた『しゃべり場』でした。

まちづくりなみえ町内コミュニティ再生支援事業では、町の様子などをブログで取材し発信しています。ブログに掲載した記事の一部を抜粋してお届けします。



3月7日に、いこいの村で開催された『紅房桜(ベにふさざくら)』植樹イベントに伺って参りました。ポケットモンスターの原作者である田尻智さん

のお父様、田尻義雄さんが浪江町ご出身というご縁で、2007年にふるさと浪江を「桜香る町にして欲しい」と新たな桜の品種である『紅房桜』の苗木を1,000本ご寄贈いただきましたが、震災後管理不十分となり残念ながら大部分が枯損してしまったそうです。

そこで改めて『紅房桜』を植樹し、新たな町の名所づくりをする

ために、町民の皆さまとの植樹イベントが開催されたと伺いました。当日は、風が多少冷たいながら晴天という植樹日和に恵まれ、町内外から70名程の方が参加されました。遠くは、仙台市から駆け付けてくれた方もいらっしゃいました。次から次に黙々と植樹作業を進める方もいれば、何やら近況報告で話の花を咲かせているグループもいらっしゃいました。また、鍬を手に取り慣れた手つきの方も居れば、自分の身長と変わらない鍬に手こずりながらも一生懸命作業する可愛らしい子供たちが居たりと、大変楽しそうな風景でした。

昨年はコロナ禍の為、外出が制限され、思うような時間を過ごすことが出来なかった1年でした。今年は皆で楽しく歓談できる時間が増えそうですね。いこいの村は、近い将来きっと紅房桜の名所としてお花見で賑わいますね。

桜は野生種15種、園芸品種数で300以上(分類方法の違いもあり正確に数えきれなく諸説あり)あるそうです。

その中でも、割と新しい紅房桜。紅房は台湾の八重咲きの緋寒桜(ひかんざくら)と、大島桜の改良種とみられる静岡県のお房(ふさ)桜を交配したものだそうです。順調に成長して、早く開花した風景が見たいですね。

とても楽しみです。

引き続き、まちづくりなみえのホームページ内ブログ“なみえの今”では地域の出来事や様子などを発信しています。右のQRコードからもアクセスできます。どうぞご覧ください。

